

情熱的かつひたむきに生きる一人のピアニスト その音のなんと強く、温かく、そして優しいことか

ウクライナに生まれ、チェルノブイリ原発事故後白血病を発症、現在スイスを拠点に活動

アレーナ・チェルニー & 河村典子 デュオリサイタル

ダルムシュタット現代音楽祭最優秀演奏賞受賞、元チューリヒ歌劇場管弦楽団首席奏者



◎アレーナ・チェルニー Alena Cherny, Piano

1967年。ウクライナ北部のロムヌィに生まれる。キエフのチャイコフスキー音楽院を卒業後、ドイツのフライブルグ音楽大学で研鑽を積み、ソリスト・ディプロムを修めたほか、トロツィンゲン国立音楽大学では室内楽と歌曲伴奏法を学ぶ。1991年クララ・ハスキル国際ピアノコンクールにてファイナリスト。

ソロ活動とともに、イリヤ・グルベルト（ヴァイオリン）、マルティン・ツインマーマン（クラリネット）、ファビオ・ディ・カソーラ（クラリネット）らとともに室内楽にも取り組み、共演者および聴衆から高く評価されている。録音ではソニー・ヨーロッパからの7タイトルほか、多数のCDをリリース。

2012年に制作されたアレーナの軌跡を追ったドキュメンタリー映画「アパッショナータ」がチューリヒ映画祭において観客賞を受賞。翌年にはピアノの名曲小品を集めたコンセプトアルバム「For You」がリリースされ、映画で描かれた彼女の激動の半生とあいまって、その心に迫る演奏が静かな感動を呼んだ。

◎河村典子 Noriko Kawamura, Violin

毎日学生音楽コンクール全国の部第1位。桐朋学園大学音楽学部を経て、西ドイツ政府留学生としてミュンヘン、エッセン、ベルリンの各音楽大学にて研鑽を積む。1979年よりスイス在住、チューリヒ歌劇場管弦楽団第2ヴァイオリン首席奏者として7年間在籍の後、現在も同地を拠点に活動。

NHK-FM「ベストオブクラシック」「名曲リサイタル」NHK-BS第2「クラシック倶楽部」等に出演。詩人谷川俊太郎氏、能の梅若紀彰氏などとのジャンルを超えたコラボレーションや、「ストリング」誌にエッセイ「奏意工夫」を連載。



《プログラム》

J.S.バッハ(ケンプ編): イエスよ、私はあなたの名を呼ぶ BWV639
主よ、人の望みの喜びよ BWV147

モーツァルト: 幻想曲 ニ短調 K.397 ほか(ピアノ・ソロ)

J.S.バッハ: ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ 第4番
ハ短調 BWV1017

モーツァルト: ヴァイオリンソナタ ト長調 K.379

ストラヴィンスキー: イタリア組曲 ほか(ピアノ&ヴァイオリン)

2019年2月19日(火) 14:00開演 13:30開場 指定席 一般:3,000円 学生:1,800円

※チャリティーシート(AB列中央23席/差額は寄付いたします):3,300円 ※ハーフ60(後半当日券):1,800円

発売日 宗次ホール友の会会員 11/17(土) フレンズ会員 11/18(日) 一般 11/25(日)

チケットのお求め・お問い合わせ 宗次ホールチケットセンター ☎052-265-1718(営業時間10:00~16:00または18:00)

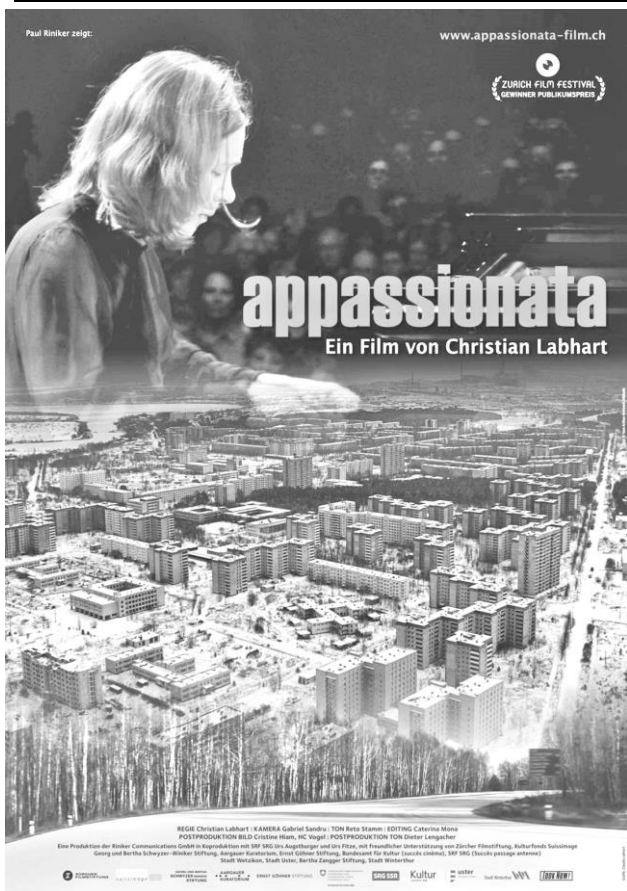
コンサート連動企画《特別映画上映会》

2月19日に開催するアレナ・チェルニー&河村典子 デュオリサイタルに先駆けて、このコンサートに出演するアレナ・チェルニー氏を追いかけたドキュメンタリー映画を、宗次ホールにて上映いたします。

チューリヒ国際映画祭 ドキュメンタリー 観客賞受賞作品

appassionata ※情熱の意

ピアニスト アレーナ・チェルニーの半生



「言葉では嘘をつけますが、音楽ではできません」

これはアレナ・チェルニーの言葉であり、彼女もそのように生きている。アレナは心身共に真のピアニストだ。その演奏は、悲しみや怒り、熱狂や愛も露わにする。

ウクライナに生まれ、スイスでピアニストとしての名声を確かなものとした彼女は、いま自身の心からの願いを叶えようとしていた。その願いとは、ウクライナの故郷の村の音楽学校にグランドピアノを贈ること。彼女は寄贈するピアノと共に彼女自身の過去を巡る旅に出る。故郷のウクライナの寒村、9歳から両親と遠く離れて暮らしたキエフの名門音楽学校の寮、1986年のチェルノブイリの悪夢と白血病、子供を授かりながらもウクライナにいる両親の元に預けて西側に亡命したこと……。

『アパッショナータ』は遍歴の物語であると同時に、ある逞しい女性とその情熱の肖像画でもある。

◆ * * * ◆ * * * ◆ * * * ◆ * * * ◆

『アパッショナータ』は、簡単に言えばアレナ・チェルニーのピアノ演奏のように、情熱的かつひたむきな映画です。彼女はいかなる音もぞんざいには演奏しません。彼女は自分が演奏する音楽の中で生きており、その調べは、苦難に耐え、つかみ取った自らの豊かな人生で満たされているのです。

彼女の話を知っていると、作曲家の生き様や、彼らがどんな状況の中で、時にはいかなる緊張状態の中で作曲していたか、また彼らの音楽が過去から現在に至るまでどのように演奏されてきたのか、そしてアレナ自身は作品をどのように解釈し演奏するのか……これらの点について伝える術を心得ていることについても驚かされます。彼女は自分の演奏の中に生きています。しかし、アレナにはあらゆる音楽の知識があるにも関わらず、そして私もそのことを知っているにも関わらず、彼女が時々音楽に引きずり込まれ連れ去られてしまっているように感じることがあります。あたかも音楽が彼女をとらえ、音楽の手段にしてしまったかのようになります。

この映画を観る人は、アレナとともに、型破りで心揺さぶる旅に向かうことになるでしょう。私は、その旅を経て、少なくとも出発した時とは別のところにたどり着いています。

(パウル・リニカー／プロデューサー 訳:岩田七星)

🎬 上映日 ※同一内容で3回

1月14日(月祝) 22日(火)

2月12日(火)

入場無料 / 宗次ホール(1階席のみ)

※この上映会は予約不要です直接お越しください。

各13:45開演 13:30開場

本編(82分)の後、アレナ・チェルニーが出演するコンサート映像(30分)をご覧ください。間に小休止を設けます。本編は日本語字幕(訳:河村典子)付き。

アレナ・チェルニー(ピアノ) ダグラス・ボイド(指揮)

ウィンターウルム・ムジークコレギウム管弦楽団

モーツァルト:ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K.466